



JARA NEWS

December 2016, No. 106

from
Japan Automotive Recyclers Alliance
www.jara.co.jp

Published by JARA Corporation
Tokyo Head Office: Shinawa Bldg. 1-2-2-7F,
Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo JAPAN 103-0027
Phone: +81 3 3548 3010 / Fax: +81 3 3231 4690



引き取り依頼元との関係強化が奏功



Body and paint (BP) repair

JARA、ELVの 入庫誘導が好調 16年度2万5000 台突破見通し

JARA（日本自動車リサイクルーズ・アライアンス、北島宗尚社長、東京都中央区）の使用済み自動車（ELV）入庫誘導台数が好調に推移している。2016年1～10月実績は前年同期比37・4%増の1万9300台を記録。すでに15年暦年（1～12月）実績の1万7127台を上回っている。損害保険会社やリース会社などとの関係強化策が奏功したと見ており、16年度（16年4月～17年3月）では2万5千台を突破する見通しだ。

ELVの発生台数は新車販売の低迷や自動車使用期間の長期化などを背景に中長期的に減少するとの見方が一般的。同社はこうした状況に対応するためELVの引取依頼元である損保会社やリース会社、中古車販売店との信頼関係の構築に取り組んできた。

昨年からはJARAブランドを前面に押し出した引取活動を強化。車両引取時の服装や装備、接客対応などをグループとして統一することでJARAブランド

の信頼性向上につなげてきた。またELVの引取依頼企業にアンケートを実施。引取依頼企業がJARA会員の対応を評価できる体制を整えることで顧客満足度の向上に結び付けている。

こうした各種施策の積み重ねがELV入庫誘導台数の底上げにつながった。同社は今後もELVの入庫誘導のみならず、ITを活用した業務効率化などもサポートし、会員の事業支援を強化していく方針だ。

（日刊自動車新聞11月10日）

JARA、フロント 担当ら対象にBP研修

日本自動車リサイクルーズ・アライアンス（JARA、北島宗尚社長、東京都中央区）は10月25～27日の3日間、静岡県裾野市のあいおいニッセイ同和自動車研究所で会員研修「中級フロント・生産研修会」を開催した。同社として初めて板金塗装（BP）の実技講習を実施。16人の参加者はBPに関する基礎知識を座学で学ぶとともに、実際にバンパー補修作業を体験した。フロント業務、部品生産を担うスタッフがBP作業を経験する機会を設けることで「お客様であるBP事業者などに対する信頼感の醸成、ニーズに合った部品提案などを支援したい」（同社）考えだ。

フロント担当者6人、生産担当者10人の全16人が参加した。初めて行った実技講習ではバンパーの傷補修を体験した。あいおいニッセイ同和自動車研究所のスタッフが講師を務め、参加者はパテ埋めして整形、サフェーサー塗布による塗装前の下地処理、カラーデータを用いた色選定や調色、塗装、クリアまで一連のBPプロセスを実際に作業した。

同社が会員を対象にBPの実技研修を行うのは「日常業務で生産し、販売している部品が多くを工程を経て商品化されていることを認識してもらおう」（同）ため。フロント、生産担当者がBPに関する基礎知識を習得することで「顧客と共通言語で商談できるようにする」狙いだ。

（日刊自動車新聞11月1日）



「ありがとう」を
たくさんもらえる会社へ

<http://www.jara.co.jp/>



自動運転技術「プロパイロット」を搭載した日産「セレナ」



JARA、中古品再生の共同研究 精密工学会WGに参画

JARA（日本自動車リサイクラーズ・アライアンス、北島宗尚社長、東京都中央区）は、中古品を再生する「リマニュファクチャリング」に関する共同研究を開始した。公益社団法人精密工学会が立ち上げたワーキンググループ（WG）に参画。今月初旬に行われた初会合では北島社長がリサイクル部品ネットワークなどについてのプレゼンテーションを行った。WGには日本貿易振興機構や家電業界など幅広い分野の担当者が集っている。JARAは自動車リサイクル業界以外との意見交換を積極的に進め、自社サービスの向上につなげる方針だ。

WGは精密工学会LCE専門委員会に設けた。代表は産業技術総合研究所（産総研）の松本光崇主任研究員。早稲田大学の高田祥三教授と東京大学の梅田靖教授、産総研の増井慶治郎研究グループ長がアドバイザーを務める。自動車業界からはJARAと信越電装、家電業界からはパナソニックが参画している。

初会合ではJARAの北島社長が部品ネットワークやリサイクル業界の現状、

CO2削減数値（SPLシステム）

リユースパーツ使用によるCO2削減効果
参考値 平成28年10月

3,345t

※一般、中・大型含む車を修理する際、新品部品を使用して修理する場合に出るCO2排出量とリサイクル部品を使用して修理する場合のCO2排出量の差がCO2削減数値になります。

一般社団法人日本自動車リサイクル部品協議会と早稲田大学環境総合研究センターがLCA（ライフ・サイクル・アセスメント）の考え方にに基づき共同開発した「グリーンポイントシステム」より参照。

課題などを説明した。同社は部品取引に関するビッグデータを保有しており、参加者からの関心も高かったという。

同社はWGに参画することで「自動車リサイクル業界内には分からないことにも気付くことができる」と指摘。すでに展開しているビッグデータ活用サービスの拡充などに生かしていきたい考えだ。同時に、リマニュファクチャリングの普及促進を異業種とともに進めることで、循環型社会の構築に寄与していく。

（日刊自動車新聞10月6日）

損保各社、自動運転対応を加速

既存の自動車保険は自動運転に対応できるのか。高速道路の単一車線を自動走行するなど自動運転技術搭載車が登場する中、損害保険業界の動きが活発になっている。東京海上日動火災は車両の欠陥やハッキングなど特定の状況下で発生した事故に対し、被害者救済を迅速に行うための特約を開発。三井住友海上火災も同様の商品販売を検討中で、自動走行技術の普及を先取りした商品開発に着手している。ただ、既存の自動車保険が適用されないのかという点、そうではない。レベル3までは運転者にも責任が発生するため、大半の事故は「現行の自動車保険で対応できる」（損害保険ジャパン日本興亜）状況だ。一方、こうした保険対応は車両を販売するディーラーなどにとって、ユーザーに安心材料を提供する一つのツールとして活用できそうだ。

東京海上日動火災が開発した「被害者救済費用等補償特約」の特徴は何なのか。それは事故の責任所在が明確にならない事故発生当初から、保険金の支払いに向けた対応が進められることにある。

同社の既存の自動車保険では運転者（被保険者）の過失が「不明」または「なし」の場合は支払い対応が進められない。一方、自動運転技術搭載車による事故は、運転者だけでなく、自動車メーカーやソフトウェア事業者、インフラ関係者など賠償義務者が多岐にわたるため、事故原因の究明や責任所在の解明、

責任割合の確定に相当の時間を要することが想定される。

そのため同社は自動運転技術の本格普及を見据え、将来的に発生するであろう新しい事故形態に際し「被害者を迅速に救援するためのセーフティネット」として同特約を開発した。ただ、特約を使わずとも既存の自動車保険で「ほとんどの事故に対応できる」との見方もしている。来年4月1日以降、新規、更新を含むすべての自動車保険契約に自動付帯し、追加保険料が発生しないのはこのためだ。

損害保険ジャパン日本興亜は「新商品を作らずとも現行の自動車保険で対応できる」としている。「メーカーや通信会社など運転者以外に過失が認められた場合には、被害者救済の観点から先に保険金を支払い、その後、応分の負担を請求する」意向だ。

三井住友海上は「基本的に事故の際にはドライバーにも責任が発生することが前提。大半の事故には既存の保険で対応できる」、あいおいニッセイ同和も「現行制度で適用できる」としている。また、日本損害保険協会は6月に「レベル3までは現行法の考え方を適用することに問題はない」と指摘している。

自動運転技術に対する損保各社の動きや商品開発は、安全で安心な自動走行技術の普及を担保するものとなる。ディーラーなど自動車販売店においては、自動運転技術搭載車を販売する際の安心材料の一つになりそうだ。

（日刊自動車新聞11月28日）

PLACE AD

Advertiser wanted!

Advertise your excellent products and services to readers in the automotive recycling industry around the world!

Contact with JARA Corp.

<http://www.jara.co.jp/>



コベルコが提案する 新しい考え方

マルチ解体機

使用済み自動車の解体以外にも廃家電などの金属製機器の解体およびさまざまな複合廃棄物の解体・分別作業が可能です。

自動車解体機

使用済み自動車に含まれる素材の分別作業がスピーディーに行えて希少金属資源の回収が可能です。



SK135SRD



SK210D

コベルコ建機株式会社
www.kobelco-kenki.co.jp/

For Japan

新构想源于神钢

多功能拆除机

不仅可以拆除不再使用的汽车，还可以拆除废家电等金属制机器以及各种复合废弃物品的拆除、分类作业。

SK210D



汽车拆除机

可快速进行报废汽车内素材的分类作业，能够回收稀金属资源。

SK210D



成都神钢工程机械(集团)有限公司
www.kobelco-jianji.com/

For China

新构想源于神钢

多功能拆除机

不仅可以拆除不再使用的汽车，还可以拆除废家电等金属制机器，以及进行各种复合废弃物品的拆除、分类作业。

SK200



汽车拆除机

可快速进行报废汽车内部素材的分类作业，得以回收稀有金属资源。

SK200



FAIR FRIEND ENTERPRISE CO.,LTD.
www.ffg-tw.com/

For Taiwan

새로운 발상은 KOBELCO에서

멀티 해체기

용도 폐기된 자동차의 해체 외에도 폐가전제품 등 금속제 기기의 해체 및 다양한 복합 폐기물의 해체·분리작업이 가능합니다.



SK135SR

(주)삼정건설기계
www.samjung-kenki.co.kr/

For Korea

New ideas come from KOBELCO

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life vehicles, Multi-Dismantling Machine can break down various metal products and equipment such as used household appliances and can separate and sort various composite material wastes.

SK210D



KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.
www.kobelco-usa.com/

For North America

New ideas come from KOBELCO

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life vehicles, Multi-Dismantling Machine can break down various metal products and equipment such as used household appliances and can separate and sort various composite material wastes.



SK135SRD

KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY AUSTRALIA PTY LTD
www.kobelco.com.au/

For Australia

New ideas come from KOBELCO

Multi-Dismantling Machine

In addition to dismantling end-of-life vehicles, Multi-Dismantling Machine can break down various metal products and equipment such as used household appliances and can separate and sort various composite material wastes.

SK210D



Car-Dismantling Machine

Car-Dismantling Machine efficiently separates and sorts raw materials in end-of-life vehicles and is able to recover rare earth metals.

SK210D



KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY EUROPE B.V.
www.kobelco-europe.com/

For Europe